

## 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名： 内藤 大輔	提出日：平成 年 月 日
<b>東南アジア研究所における職名：特任研究員</b> * 右記の該当する職位に○をつけて下さい。(講師・助教・助手・ポスドク・博士課程学生・修士課程学生・学部学生)	
<b>派遣先の研究機関等(調査を実施した国名・機関名(日本語で記載)及びカウンターパート名)：</b> アメリカ、カルフォルニア大学バークレー校 羽生淳子教授、インドネシア、国際林業研究センター(CIFOR) 笹岡正俊 研究フェロー * 派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所○をつけてください。(大学・研究機関・企業・その他)	
<b>派遣先の研究機関等での職名：</b>	
<b>派遣期間：</b> 平成 24 年 11 月 10 日 ~ 平成 25 年 1 月 8 日 (派遣日数：60 日)	
<b>研究活動等の主な内容(該当する番号に○をつけてください。複数可)</b> <input checked="" type="checkbox"/> ①研究・実験 <input checked="" type="checkbox"/> ②フィールドワーク <input type="checkbox"/> ③セミナー <input type="checkbox"/> ④インターンシップ <input type="checkbox"/> ⑤サマースクール等の講習 <input type="checkbox"/> ⑥学会出席 <input type="checkbox"/> ⑦単位取得等 <input type="checkbox"/> ⑧その他	
<b>研究活動の主な領域(該当する番号に1つ○をつけて下さい。)</b> <input type="checkbox"/> ①人文学 <input type="checkbox"/> ②社会科学 <input type="checkbox"/> ③数物系科学 <input type="checkbox"/> ④化学 <input type="checkbox"/> ⑤工学 <input type="checkbox"/> ⑥生物学 <input type="checkbox"/> ⑦農学 <input type="checkbox"/> ⑧医歯薬学 <input type="checkbox"/> ⑨総合領域 <input checked="" type="checkbox"/> ⑩複合新領域	
<b>派遣の概要(500~700字程度)</b> アメリカではカルフォルニア大学バークレー校にて、研究員との意見交換や、森林認証制度についての研究論文の収集を行った。またインドネシア、国際林業研究センター(CIFOR)では、森林認証制度に関するプロジェクトを担当している研究者との意見交換を行い、進行状況について伺った。続いてインドネシア、ジョグジャカルタ南東部に位置するグヌン・キドゥルにおいて、ジャワの伝統的な農村における気候変動へのレジリエンスについての調査を行い、毎年繰り返される乾季に対して村の人々がどのように対応しているのかの調査を実施した。グヌン・キドゥルは、ジョグジャカルタ市内から車で40kmぐらい南東に向かったところに位置する。また年間降水量自体は約1500mmと周辺地域と比べてもそう低くもないのだが、石灰岩台地からなるため、水がたまりにくいことと、4月下旬頃から10月頃まで長期の乾季が入るため、長年渇水に悩まされてきた地域である。この地域はチークが適するエリアで、住民は畑や屋敷林にチークを植えており、それらのチークは森林管理協議会(FSC)のコミュニティ認証も取得しており、認証の取得が、生業向上につながっているかの調査も行った。	
<b>事業に係る研究成果(500~700字程度)</b> グヌン・キドゥルに暮らす人々の主な生業は畑作であり、農閑期には、出稼ぎなどの農外就労をおこなう。長い乾期を耐えるため、村人は生業の多様化をはかっていた。農閑期である乾期の間は、とくに出稼ぎが多く、ジャカルタやジョグジャカルタでの建設労働、店員、警備などの仕事などについていた。また家具職人、大工、手工業や炭焼きなど乾季の間にも行える生業を多く持っている世帯が多かった。 家の周りに植えられたチーク林は、大きな出費が見込まれるときに、伐採される銀行のような機能を果たしていた。家族が病気の時や、子供の学費、家の建設などで大金が必要ときに伐採されていた。この地域のチーク林は、森林管理協議会(FSC)によるコミュニティ林認証を受けていた。林業局OBの作った会社が認証を取得しており、村のチーク生産組合がそのメンバーとして加盟していた。認証材は通常の材に比べて価格が3割増しなのだが、欧州危機のせいか需要が少なく、ほとんどの木材は地元の市場に流れていた。そのためFSCを取るための努力が報われないという声も聞かれた。 今回の研究成果の一部は、東南アジア研究へ投稿中であり、また編著『ボルネオの<里>の環境学』として3月末出版予定である。	

